

都市再生整備計画 事後評価シート  
箕面市南東部地区

平成26年3月

大阪府箕面市

様式 2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	大阪府	市町村名	箕面市	地区名	箕面市南東部地区		面積	551 ha	
交付期間	平成23年度～平成25年度	事後評価実施時期	平成26年3月	交付対象事業費	2,030百万円	国費率	40%		
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	箕面市立小野原多世代地域交流センター、箕面市立多文化交流センター、春日神社南側緑地植栽、箕面市立多世代交流センター						
		提案事業	地域福祉活動拠点・箕面市立小野原図書館(併設)、箕面市立多世代交流センター(浴室 他)、事業効果分析調査						
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名	(仮称)子育て支援拠点		削除/追加の理由	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		
			理由	子育て支援拠点は当初、集客性の要素が高いキッズセンターと併せて南東部地区の子育て世代の流入に対応するため、現豊川支所の一部を活用し、「(仮称)子育て支援拠点」として東部子育て支援センターを整備することとしていた。その中で、北大阪急行延伸計画に合わせて、市全体の子育て支援センターの配置、規模、運営を総合的に再検討することとなった。特に、豊川支所の子育て支援センターに併設するキッズセンターについては、より集客性の高い萱野中央に整備するのがより効果的であると考えている。		指標である「子育て支援拠点の利用組数」は、「箕面市立多世代交流センター」と今回削除する「(仮称)子育て支援拠点」の2件に関するものであり、指標の「子育て支援拠点の利用組数」の目標値は当初「箕面市立多世代交流センター」で約500組、「(仮称)子育て支援拠点」で約800組(計1,300組)の増加を見込んでいたが、「箕面市立多世代交流センター」のみの増加となるため、従前の1,731組から目標値を約500組増の2,200組とする。			
		理由	豊川支所設置予定の子育て支援センターについては、キッズセンターを切り離すことから、運営方法、規模について再度見直す必要があるため整備時期を延期することとなったため、当整備計画から削除する。						
	提案事業								
	新たに追加した事業	基幹事業	東生涯学習センター整備(駐車場整備を含む)	箕面市立多文化交流センターや箕面市立小野原多世代地域交流センターと連携した施設運営を行うこと及び他の交流センターではまかなえない大規模な会場を整備するため、既存施設の一部に地域交流センターの機能をもたず改修を行う事業を追加する。		新たに目標及び当該事業にかかる指標を追加する。			
			施設案内板設置	当計画で整備する施設について、市民に対し広く案内するため、案内標識を設置する。		特になし			
		駐車場整備(追加後削除)	(仮称)子育て支援拠点の整備後、来客者の増加が期待されるが、現行の駐車場では対応しきれないことが予想されるため、駐車場を整備する。 【その後、(仮称)子育て支援拠点の事業を削除することとなったため、これにあわせ削除する。】		特になし				
	提案事業								
交付期間の変更	当初	H23～H26	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	特になし					
	変更	H23～H25							

	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
	単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標1	国際交流協会のボランティア数	人	197 H21	320 H25		290	△	あり なし	○	「①大学等の近隣地区への立地、②公共施設空白区への設置、③図書館等との複合施設の利点、④コミュニティカフェ等による地域交流拠点の設置」により、当該地域を活性化することを目的に、多文化交流センター及び小野原図書館を開設した。ボランティア数の増加は、施設設置が地域ニーズに合致したためと考えられる。本施設の事業進捗には、ボランティアの協力が不可欠であり、利用実績を左右する指標とも言える。現在も継続してボランティア養成講座等を行っており、普及拡大に努めている。	平成27年4月頃
	指標2	子育て支援拠点の利用組数	組/年	1,731 H21	2,200 H25		3,683	○	あり なし	○	多世代交流センター内に設置された子育て支援センターは、市内3ヶ所目の支援センターとしてオープンし、親子のつどい、子育て世帯の交流の場として、地域住民を中心とする子育て世帯に利用され、全庁的な利用組数の増加につながると共に、子育て世代への支援が促進された。なお、多世代地域交流センター内の親子で遊べるフリースペースについても、広く利用されている。	
	指標3	地域イベントの参加人数 (納涼祭・地域運動会・地区敬老会)	人	1,800 H21	2,160 H25		2,606	○	あり なし	○	施設設置に伴う地域活動の活性化並びに、施設利用者へのPR活動などにより、目標を達成することができた。	
	指標4	多世代交流複合拠点利用者のサークル数	組	17 H22	20 H25		27	○	あり なし	○	施設オープンから1年未満で目標値を達成したものの、施設の利用可能性はまだ十分にあり、今後の地域における交流拠点としての認知度を向上させていく必要がある。	
	指標5	緑地清掃活動の実施回数	回	0 H22	24 H25		24	○	あり なし	○	地域の活動団体に、自主管理活動として、緑地の清掃及び除草を担っていただけており、目標を達成することができた。	
	指標6	東生涯学習センターで整備する大会議室の利用件数	件/年	20 H23	40 H25		-	-	あり なし	○	施設整備期間の関係から、大会議室が利用できないため、次年度にフォローアップとして確認する。	平成27年4月頃
3) その他の数値指標 (当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	その他の数値指標1	多文化交流センター・小野原図書館利用者満足度	点	-	-		81				施設の満足度を点数化すると81点となっており、50点(平均点)を大きく上回っている。地域特性を生かした施設であることに加え、特徴あるコミュニティカフェ事業や、図書館事業に対する利用者の満足度や、今後の継続した利用意欲を確認できる。	
	その他の数値指標2	多世代交流センター利用者満足度	点	-	-		72				施設の満足度を点数化すると72点となっており、50点(平均点)を大きく上回っている。松寿荘事業を通じたシルバー世代、子どもサポート事業を通じた子育て世代の満足度や今後の継続した利用意欲を確認できる。また来館手段として、コミュニティバスが効果的に利用されている。	
	その他の数値指標3	小野原多世代地域交流センター利用者満足度	点	-	-		81				施設の満足度を点数化すると81点となっており、50点(平均点)を大きく上回っている。幅広い世代の利用があり、施設や事業に対する満足度や、今後の継続した利用意欲を確認できる。	
4) 定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>多文化交流センター内にあるコミュニティカフェ「comm cafe」では、国際交流協会に集う外国人シェフにより、日替わりで自国の家庭料理を主とするランチが提供され、地域住民を中心とするボランティアによって運営されている。</li> <li>春日神社南側緑地では、地域住民による自主的な管理が行われている。</li> </ul>											
5) 実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等	
	モニタリング		なし				<ul style="list-style-type: none"> <li>都市再生整備計画に記載し、実施できた</li> <li>都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した</li> <li>都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった</li> </ul>				-	
	住民参加プロセス	春日神社南側緑地における、地域住民による自主的な管理					<ul style="list-style-type: none"> <li>都市再生整備計画に記載し、実施できた</li> <li>都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した</li> <li>都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった</li> </ul>				●	定期的な活動を通じた団体活動の活性化並びに、地域施設の保全活用を通じたコミュニティの醸成を図る。
	持続的なまちづくり体制の構築	多文化交流センター「comm cafe」におけるボランティアを中心とする管理運営					<ul style="list-style-type: none"> <li>都市再生整備計画に記載し、実施できた</li> <li>都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した</li> <li>都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった</li> </ul>				●	施設の認知度を高め、地域住民及び外国人市民に対し、より一層の施設の浸透を図る。

様式2-2 地区の概要

箕面市南東部地区（大阪府箕面市） 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
大目標：歴史文化と住民交流・国際交流の結節点を活かしたまちづくり □地区の特色である歴史文化と国際化を活かし、子育て世代からシルバー世代、新旧住民も外国人市民も、みんなが交流できるまちづくりをめざす。 ■目標1：歴史と国際色豊かな地域特性を活かし、地域の新旧住民や多様な文化背景を持つ市民が交流することで、地区の魅力を高める。 ■目標2：地域における住民活動を通して、子育て世代からシルバー世代まで、すべての世代の活性化を促す。 ■目標3：歴史ある鎮守の森を核とする緑地を保全し、親しみある空間として整備することで、まちに対する愛着と誇りの意識を高め、住民交流の活性化を図る。 ■目標4：地域での住民活動の発展に対応できるよう既存施設に地域交流機能を追加し、地域交流拠点として幅広い住民活動の支援を実現する。	国際交流協会が活動しているボランティア数	単位：人 197	H21 320	H25 290
	子育て支援拠点の利用組数	単位：組/年 1,731	H21 2,200	H25 3,683
	地域イベントの参加人数（納涼祭・地域運動会・地区敬老会）	単位：人 1,800	H21 2,160	H25 2,606
	多世代交流複合拠点利用者のサークル数	単位：組 17	H22 20	H25 27
	緑地清掃活動の実施回数	単位：回 0	H22 24	H25 24
	学生涯学習センターで整備する大会議室の利用件数	単位：件/年 20	H23 40	H25 -



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>【南東部地区全域】</li> <li>【箕面市立多文化交流センター】</li> <li>【箕面市立多世代交流センター】</li> <li>【箕面市立小野原多世代地域交流センター】</li> <li>【箕面市立東生涯学習センター】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流をキーワードとする面的なまちづくりの展開</li> <li>・旧西国街道沿いの集落に代表される箕面の地域文化と、多様な国際文化との結節点としての役割強化</li> <li>・北急延伸を見据えた中期的ビジョンの構築</li> <li>・新しい公の施設による、丁寧な地域交流の支援並びに地域活動の促進</li> <li>・新たな交流機能の追加による、地域交流拠点としての地域活動の促進</li> </ul>
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>【南東部地区全体】</li> <li>【箕面市立多文化交流センター】</li> <li>【箕面市立多世代交流センター】</li> <li>【箕面市立小野原多世代地域交流センター】</li> <li>【箕面市立東生涯学習センター】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティバスの積極的活用するなど、利用者特性に応じた、施設への効果的な来館手段の検討</li> <li>・指定管理者が互いに交流、情報共有できる場の構築</li> <li>・コミュニティカフェにおいて、世界各国の料理に加え、箕面の農産物を用いた地産地消型の「和食」を提供するなど、「食」を通じた地域文化との交流</li> <li>・外国人による伝統的な地域行事への参加をきっかけとする、新旧住民の関わり合いの促進</li> <li>・新駅設置に伴う都市構造の変化等への対応</li> <li>・主要な来館手段であるコミュニティバスの効果的な活用に向けた、交通施策との連携強化</li> <li>・地域利用を含めた多様な世代の利用促進</li> <li>・シルバー人材センターを指定管理者とし、高齢者の豊富な経験を活用した次世代との交流や、地域における高齢者から子どもまで世代を超えたふれあいの場となる公共施設としての事業推進</li> <li>・利用者を固定化させない、新陳代謝を備えたフレキシブルな施設運営の実施</li> <li>・多様な活動への利用拡大と地域交流拠点として再整備された施設及び駐車場の有効活用</li> <li>・地域交流機能の追加により、多様な地域活動に対応した施設運営の実施</li> </ul>